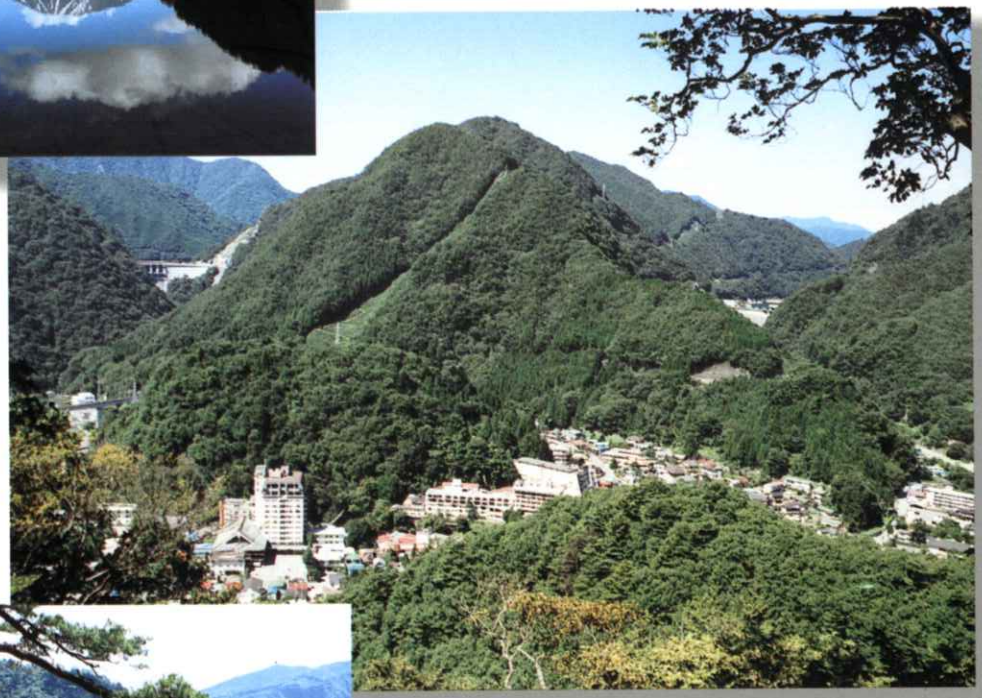
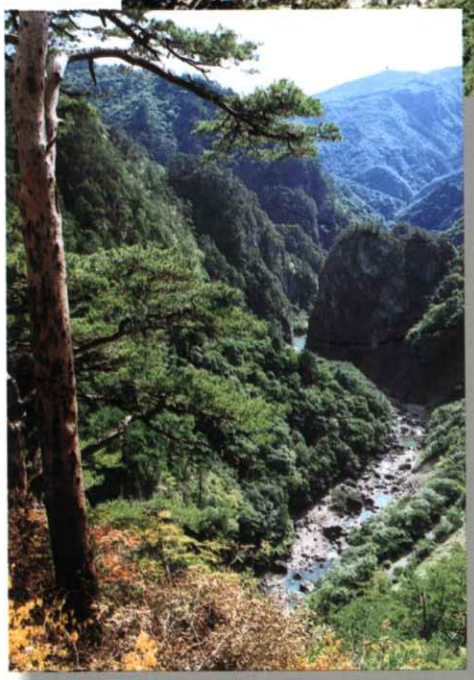
福島森林管理署提供 2004.5.19

森林景観づくり
2004





林野庁　日光森林管理署

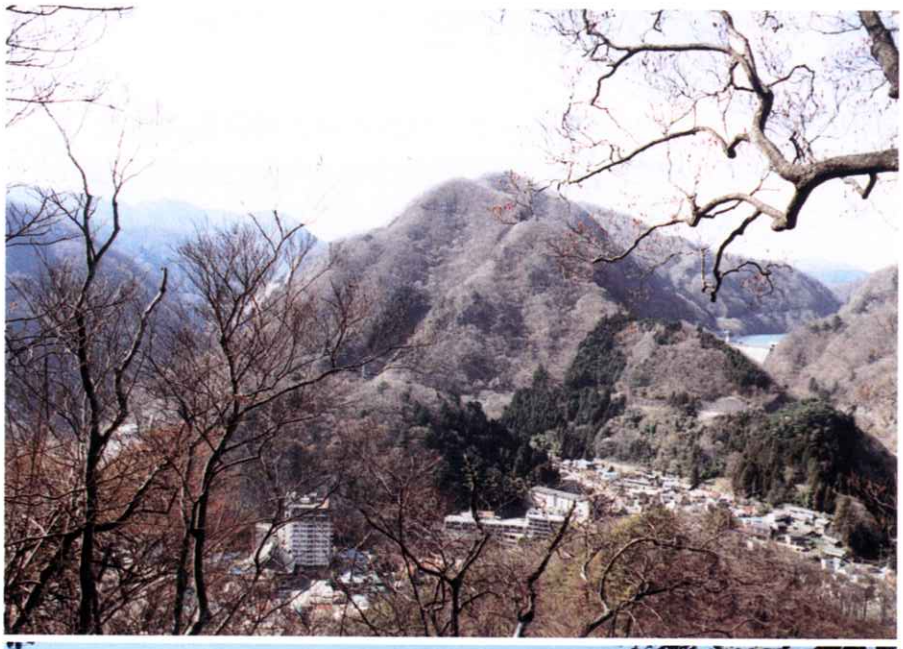
比較写真１－３
展望台東側の伐採前後の状況

（上）伐採前の状況（15.9.2）
展望台のすぐ前に、若い小さな広葉樹（ヤハズハンノキ）が繁茂し、全く見通すことができない。景色が見えないのでベンチを利用する人はいなかった。

（中）伐採後の状況（15.10.1）
15年9月18日に広葉樹８本を伐採したことにより見通しが確保された。正面の山は男体山。

（下）ベンチからの眺め（15.10.1）
伐採後は、多くの人が利用するようになった。説明しないと誰も伐採したことには気がつかない。

比較写真６－１　ダムダム見晴し台からの眺め



（上）伐採前（14.4.4）
写真左側に樹木が多く、川治ダムや野岩鉄道等が見通せない。

（中）伐採後（15.9.14）
２つの大ダムと野岩鉄道等が眺められるようになった。

（下）紅葉等の眺め
（14.11.20）

写真５－８は奥日光中禅寺湖畔のモミジの紅葉です。本数は少ないのですが、モミジが大きく、色合いも微妙に変化しているので魅了されてしまいます。このようにモミジは１～２本でも大きな効果が得られます。モミジを植栽する場合は山に自生している色合いの良いモミジを選んで移植すると良いでしょう。

写真５－９は道路沿線のモミジの紅葉です。平成13年10月にモミジの周りの樹を伐採して、モミジに十分陽があたるようにしました。平成15年10月には、写真のとおりよく紅葉したため、車を止めて紅葉を楽しむ人が増えました。モミジの紅葉を良くするためには、十分な光があたるよう周囲の樹木の手入れが必要です。

写真５－８　オレンジ色に紅葉したもみじ（15.10.30）

写真５－９　周囲の樹木を伐採したことにより紅葉したもみじ（15.10.27）

（3）整備前の状況

西岸からは正面に男体山が、左手前にはヤチダモ林が、右側には針葉樹、広葉樹の混交林が一望できます。西岸からの眺めは北岸に劣らず魅力的です（**比較写真7－4**）。

比較写真7－4　西ノ湖西岸と北岸からの眺め

（上）西岸からは、男体山、ヤチダモ林（左）、湖面を眺めることができる。（15.10.1）

（下）北岸からは対面の山腹の森林を眺めることができる。（14.10.上旬）

付属資料８　西ノ湖西岸への歩道整備

下野新聞
2003年（平成15年）９月２７日（土曜日）

西ノ湖のヤチダモ保護

日光森林管理署

西岸への歩道整備

ハイカー分散 観光と両立

晴れた日には男体山が望める西ノ湖西岸

【日光】日光森林管理署は、奥日光西ノ湖畔手前から北岸の広葉樹ヤチダモの自生地を通らずに西岸（西ケ浜）へ抜けられる新たな歩道を整備し、二十五日から一般に開放した。ヤチダモの自生地に人が踏み入り、樹木が枯れるなどの被害が出ていたため、保護を目的に新設。同署は「西岸の〝隠れた名所〟に行きやすくすることで、ヤチダモの保護にもつながる」と、観光と自然保護の両面での効果を期待している。

ヤチダモはモクセイ科の広葉樹。木は真っすぐに伸び、野球用バットなどに使われる。湿地を好み西ノ湖北岸に約二百本が自生するが、同署によると、北関東でこの規模のヤチダモ林があるのは珍しいという。

しかし最近は、人の踏み付けなどで土壌が硬くなり、根が十分に呼吸できないことなどから樹勢が衰退。湖面近くにハイカーが多く訪れ、最上部から枯れたり、根が地表に浮き出る木も見られるようになった。

同署は今までに標識や丸太くいの設置、発根促進剤の散布などをしてきたが、抜本的対策としてハイカーの分散化を計画。由田幸雄署長（五三）が、カメラマンの撮影の穴場となっている西岸への歩道を整備することで、北岸から人の流れを分散させられると考えた。

同署は千手西ノ湖線歩道の奥にあり、約三十年放置されていた西ノ湖林道跡の整備に着手。歩道の両端に道幅を示す枯れ木を並べただけで、切り土や盛り土などを一切行わない簡素な作りだが、自然環境を損なうことなく整備された。ヤチダモ林がある北岸から眺望の良い西岸まで約六百㍍。晴れた日には岸辺から森の向こうに男体山の南西斜面が間近に現れ、美しい景観が楽しめるという。

由田署長は「西岸の美しい風景を見に来てもらうことが、北岸のヤチダモ保護につながる。ぜひ多くの人に足を運んでほしい」と話している。

西ノ湖西岸へ至る歩道コース